

令和7年度 第2回中部地方整備局ダム事業費等監理委員会及び部会 議事要旨

日 付：令和7年9月18日（水）13：30～16：30

場 所：AP名古屋 7階Lルーム

出席者：松尾委員長、小川委員、國枝委員、高木委員、豊田委員

各部会構成員

- 次 第：
1. 開会
 2. 挨拶
 3. 議事
 - 1) ダム事業費等監理委員会
 - 2) ダム事業費等監理部会
 - (1) 新丸山ダム建設事業部会
 - (2) 設楽ダム建設事業部会
 - (3) 天竜川ダム再編事業部会
 4. 議事要旨の確認

1) ダム事業費等監理委員会

いただいた意見：

- 全国的な物価上昇の説明が、それぞれの事業での単価上昇に対して過大となっていないか確認されたい。
- 大幅な計画の見直しがされる場合には、過去に策定された計画の内容が変更されたことに伴う影響など、その内訳についてわかりやすく説明するよう工夫されたい。

2) ダム事業費等監理部会

いただいた意見：

【全事業共通】

- 事業の進捗状況について、予算額での進捗率についても記載を検討されたい。
- 事業費だけではなく、ダムの効果発現が遅れないよう工程管理が重要。事業工程の進捗状況についても確認できるよう資料を工夫していただきたい。
- コスト縮減や工期短縮の取り組みについて、見込みがわかった時点で報告されたい。

【新丸山ダム建設事業部会】

- 付替道路計画の見直しについて、その調査検討費用として増額となるものの、整備・維持管理費用を抑えられ、トータルでコスト縮減となることから、良い取り組みであると思われる。工事実施においてコスト縮減結果を分析し、今後の部会で報告されたい。
- 自律型コンクリート打設システムにともなう無人化施工について、工期短縮、コスト縮減効果は注目している。効果の見込みが判明した時点で報告されたい。

【設楽ダム建設事業部会】

- 3年間での増額27億円は大きいと、事業費への影響について、今後説明されたい。

【天竜川ダム再編事業部会】

- 事業中のコスト縮減だけでなく、将来の維持管理や今後行う事業の効率化等にもつながるよう、DXの積極的な活用を検討されたい。

主な質疑 各事業共通

- リスク対策費の説明をしてほしい。
⇒物価上昇など社会的な情勢の変動を要因に対応し、残事業費の1割をリスク対策費として計上している。現場の変化や天災等への対応については、リスク対策費として計上していない。
- 事業の進捗状況について、道路延長等で進捗率を表現するほか、予算額ベースでの進捗率を説明することも検討されたい。
⇒予算額ベースでの進捗表現について検討していきたい。
- 純増、前倒し増、先送り減、その他増減などの累積が、全体事業費に影響を生じさせることがないか、工期への影響を及ぼすことがないかなど、確認していく必要がある。
また、地球温暖化による気候変動などにより、ダムの治水機能など重要性が増している。計画が遅れることなく進捗することが必要。工期に遅れが生じないのか確認していく必要がある。
⇒全体事業費や工期への影響がわかるよう表現方法を検討する。
- 物価上昇について、簡易なチェック方法を検討し根拠を示したうえで、事業への影響を示すべきではないか。
⇒物価上昇は実績を確認しつつ、事業への影響を確認できるよう検討する。
- コスト縮減や工期短縮の取り組みについて、検討中となっている事項が多いが、見込みがわかった時点で報告いただきたい。
⇒現在、検討中の内容であるため、効果の見込みがわかった時点で説明していきたい。
- 事業効果として、浸水想定区域図を用いて広域的な降雨に対する効果を示しているが、近年は都市部で局所的な豪雨による被害があるため、この被害と混乱しないような説明としてほしい。
⇒説明方法を検討する。

新丸山ダム建設事業部会

- 事業工程について、試験湛水の記載が2か所ある。
そのうちのR8、9年は何のための試験湛水か。
⇒ダム中央部及び右岸側のコンクリート打設を行うために、ダムの左岸側の放流設備を先行して施工し活用する計画としている。この左岸活用にむけて、試験的に湛水してダムの機能を確認するために行うもの。
- 試験湛水で問題が生じた場合、工期が遅れるのか。
⇒試験湛水により問題を確認した場合は、その内容により工期が遅れる可能性を否定できないが、試験湛水に問題が生じないよう事前対策を行うなど、工期に影響が無いよう工事を進めていく。
- 第3回変更後の事業費増減にある、増額88百万円はリスク対策費で対応する費用なのか。
⇒現場条件の変更や、工法検討による増額のため、リスク対策費ではない。
- 付替道路計画の見直しについて、その調査検討費用として増額となるものの、整備・維持管理費用を抑えられ、トータルでコスト縮減となることから、良い取り組みであると思われる。工事実施におけるコスト縮減結果を分析し、今後の部会で報告されたい。
⇒分析した上で今後の部会で報告する。

○P18 令和7年度予算の黄色ハッチ部をP20で説明していると思われるが、黄色ハッチ部とP20の金額が一致しておらず、わかりづらい。
⇒次回以降、分かりやすい資料構成としたい。

○付替道路計画の見直しについて、コスト縮減に向けた検討費用が増えているが、工事実施におけるコスト縮減は今年度中に実施できるのか、将来的になるのか。
⇒将来的なものである。

○DX技術について、中部地方整備局で全体を束ねる組織的な部署等があるのか。
DXの取組は、新丸だけでなく他ダムにも広げていくことが重要。
⇒中部地整の組織に、DXを専属でやっている中部インフラDX推進室という部署がある。
中部インフラDX推進室と連携を図り、中部地整全体でDXを推進しようと取り組んでいる。

○重金属の対応について、計画通りに進められているのか。
⇒有識者の意見を聞く等、対策を含めた検討を進めている。
現時点で問題はないが、新たな対応があれば報告する。

○地域振興について、黒部ダムは観光放流などを観光イベントとしてやっているため、関西電力さんのノウハウを共有して頂きながら、地域振興を進めてほしい。
⇒意見を伺いながら、進めていきたい。

○自律型コンクリート打設システムによる無人化施工について、工期短縮、コスト縮減効果は注目している。効果の見込みが判明した時点で報告されたい。
⇒判明した時点で報告する。

設楽ダム建設事業部会

○令和4年度の基本計画変更以降の事業費増減について、令和4年から6年までの3年間での増額27億円は、大きな規模の増額になっていないか、今後も増額が続くそうなのか心配である。現時点で見込めていない増額要因は、令和7年度予算にはまだ見込まれていないのか。また、これらの増額要因は今まで想定していなかった要因で増額する純増に該当するものか。
⇒ご指摘のとおり大変大きい増額になっている。現在、増額要因について精査をしているところであり、コスト縮減や今後の対応を含めて純増の位置付けとなるか検討し、全体像が見えてきたところで説明していきたい。

○増額要因が明確となり対応が必要となった場合、補正予算で対応をするのか。
⇒現場や地元状況を踏まえ、柔軟に対応していきたい。

○事業効果として農業用水及び水道用水合わせて約0.5m³/sの新たな取水を可能にするがあるが、現在もこれらの需要はあるのか。
⇒豊川は基本的に渇水気味であり、今年も2回の取水制限が行われるなど、過去より水が不足している状況である。また、水の安定供給に向けて昨年度に豊川水系フルプランの見直しが行われたが、その際に利水者からも水の必要性の意見をいただいております、水の需要は高いと考えている。

○地元住民の意見を聞き、対応していることは良い事かと思うが、騒音の環境基準値をクリアしているのであれば、地元要望とはいえ、騒音対策として4億円もの費用をかけることが妥当なのかよく検討する必要がある。また、追加対策を判断するためになにか内部基準のようなものを設けた方が良いのではないかと。
⇒当該地域はダム本体にも隣接しており、事業全体としてご迷惑をかけている地域であ

る。事業全体を地元住民の理解、協力を得て進めていくため、一つの工事としてではなく事業全体として必要な対策であると判断している。具体的な判断基準については検討していきたい。

○現在、夜間施工を実施していく計画はあるのか。トンネル工事と同様に騒音対策が必要になってくるのではないかな。

⇒工期短縮を目的として、9月から試験的に土砂運搬に絞って夜間に実施している。夜間施工は地域住民のご意見を伺いながら進めていきたい。

○事業費の増減額の累積を示していることは総事業費への影響だけではなく、工期延期に繋がるかどうか判断できる可能性があるため、良い事である。今後も継続して示していきたい。

⇒承知した。

○延坂建設発生土受入工事が先送り減となっているが、発生した土砂が運搬できず、その場に仮置きになっていると思われるが、仮置き場の造成等で追加のコストがかかってしまうのではないかな。

⇒現状、発生した土砂の一部をダム本体コンクリートの骨材として活用するため、国有地内に仮置きしており、運搬できなかった土砂も同様に仮置きしているため、追加の借地料等は発生していない。

○現道の橋梁塗装の撤去を実施するとあるが、なぜ本事業で行っているのか。

⇒本事業は元々令和8年度に完了する予定であったが、前回の第2回基本計画変更において、令和16年度まで工期延期したことに伴い、現道を使用する期間が延長となった。本橋梁は、令和9年度までに撤去しなければならない塗料を使用していることが判明したため、本事業で塗装撤去を行っている。

天竜川ダム再編事業部会

○令和6年度で発生した純増の内容について、今後も同様の事象が発生する可能性はあるのか。

⇒今後事業を進めていく中で、同様の事象や、その他不測の事態が起こる可能性はゼロではない。現時点では、他のダムで発生したリスク等、現時点で想定し得る事象については事業費に見込んでいるため、その範中であれば事業費内に納まると考えている。

○令和7年度に計上している調査・設計に関する予算について、令和6年度と比較すると大きく減少しているが問題はないかな。

⇒令和6年度は、貯水池地すべりに関する地質調査・解析も実施しているが、令和6年度予算で完了する予定であるため、この部分の予算が減少している。令和7年度は施設設計及び必要な調査を実施する事としており、現時点では予算不足はない。

○吸引工法などの新たな技術にチャレンジした記録については、採用されなかったとしても、その経緯や結果をとりまとめ、しっかりと後世に伝えていくべきではないかな。

⇒吸引工法や現在の堆砂対策工法については、過去の検討委員会の中で、経緯と結果をとりまとめている。

○工期が令和20年度までであり期間がかなりあるため、DXで自律型（無人化）施工ができればコスト縮減となる可能性がある。また、事業中のコスト縮減だけでなく、将来の維持管理や今後行う事業の効率化等にもつながるよう、DXの積極的な活用を検討されたい。

以 上